理研会報

発行　印教研　理科研究部
事務局　成田市幸町948-1　成田小学校内

校庭に自然を

指導主事　折目庸雄

昭和五十五年度から実施される新指導要領の理科の改訂の重点が〝自然の事物・現象について直接経験の重視〟であることは、今更述べる必要もあるまいが、ここで一考してみたい。

先日、ある学校で〝はたけや林にいる虫〟の学習を参観した。子ども達は、キャベツの葉にとまっている青虫を観察しながら、生き生きと学習していた。しかし、その背後にある先生の苦労は大変なものであったらしい。先ずキャベツ畑が見つからない。やっと見つけても薬剤散布が行きとどいていて虫のカゲもない。方々捜して、やっとグループ数だけ見つけましたということである。また、ある学校では、二時間かけて近くの田へ行ったが、ザリガニ二匹とオタマジャクシ少々しか持ち帰れなかったとも聞いた。

それでもこの地域はまだ学校周辺に自然が残されている。ちょっと出れば畑も田も林も小川もある。これはありがたいことではあるが、その自然は多少とも変型されていることは覚悟しなければならないし、変型を止めることはできない。青虫の観察をしたいから薬剤散布をやめてと頼めるものではないし、田への農薬散布は農家の生活がかかっているのである。

とすれば、もっと手近にある自然で学習できないだろうか、と考える。校庭の桜の木には毛虫もいる。バラにはアブラムシも、テントウムシもいる。蝿も蚊もいないわけではない。しかし、青虫のかわりに毛虫を使ったら、子ども達は鼻をつけんばかりに観察するだろうか。「先生、指にとまって歩くよ」と働きかける子は出るだろうか。そう考えてくると〝草むら、水中などの動物を探したり工夫して飼ったりさせながら、それらの食べ物、住んでいる場所、動きなどに違いがあることに気付かせる〟と指導要領にあって、素材を限定していないとしても、何でも良いというわけにはいかなそうである。

自然に触れ、自然に働きかける子どもをねらうにしても、先ず、どんな事物現象から自然に触れさせていくかは、私たちの選択にかかっているし、毛虫より青虫が良いことは言うまでもない。

もう一歩、能率の問題がある。二時間でザリガニ二匹とオタマジャクシではいかにも能率が悪い。その先生だって、タニシもメダカも、ゲンゴロウもと考えたに違いない。更に、泥だらけになった児の世話だの、田の畔を壊して叱られはしないかと配慮したり、ないへんなことである。その割に効果が少なかったのでは、まるっきりである。

以上の問題点は、学校の校庭に自然を持ち込むことで、ある程度は解決しそうである。気がねなしに入り込んで青虫を観察できるキャベツ畑、自由に石ころを拾ったり、並べたり、ぶつけて割ったりできる河原、メダカが泳ぎ、タニシやゲンゴロウが水草にとまっている小川、大規模でなくてもよい。子ども達が中に入り、触れ働きかけるような場が用意されればよいと思う。PTAの人々に頼んだり、トラック一杯の砂利を買ったり、池の排水を工夫したり、決して不可能な夢ではない。

ホウセンカ、ジャガイモなどはどこの学校にも栽培されているが、それと同じに、学習の場としての自然を、校庭の一隅に、保存したり、移したり、情成したりしておきたいものである。

本年度行事

理科作品展

10月28日(土)児童生徒理科作品展を開催・標本・論文(観察記録)くらら工作。

教研集会の推進

10月4日(水)各部会を中心に授業研究を通した内容ですすめる。

当日、理科器具展示会も併催。

理研会報の発刊

この7月に百号記念誌を発刊。41年11月にスタートして13年目。

研究学校への協力

印教研指定校、白井第一小の公開は、11月17日(金)です。

本年度役員

顧問　牧野　正(県議)
〃　飯田　和幸(東葛所長)
部長　穴沢　鉦治(白井一小)
副部長　中村　欽哉(久住一小)
〃　飛田　春男(実住小)
理事　板橋　義夫(成田小)
〃　柏熊　勇(富里小)
〃　磯崎　正雄(印旛小)
〃　手塚　竜夫(北辺田小)
〃　五味　健(安食小)
〃　古谷　弘(根郷小)
〃　因泥　幹夫(西部中)
〃　平山　正一(志津中)
一部会　岩本　医市(千代田中)
二〃　湯浅　潔(成田中)
三〃　牧野　隆(印西中)
四〃　小川　桂二(臼引小)
幹事　佐藤　幸納(成田小)
〃　今井　正臣(佐倉一小)

ます。更にその機関紙が一〇〇号に達するということは、関係者の努力もさることながら、おおいに、誇り、おおいに喜ぶべきことがらでありましょう。記念誌は是非充実したいものと、中村副部長を中心に計画中でありますのでご期待下さい。

役員の中で平山幹事が、ご都合で幹事を辞退され、後任に今井正臣先生にお骨折りいただくことになりました。平山先生のご労苦に厚く感謝申し上げると共に今井幹事のご活躍を期待いたします。

本年度から小学校では改訂指導要領の移行期に入りました。学校現場ではいろいろな問題や悩みがでてくることと思います。私共は非力ではありますが、相談をいただければ全力で解決に助力いたしたいと考えております。

さいわい、印旛地方出張所へ研究部より折目先生が指導主事として着任されましたので、これもまた心強い限りで、研究部としましても充分連絡をとり、よりよい活動をしたいと考えております。

いたらない点は、ご指摘とご協力をいただきまして、私たちの研究部が益々発展していくことを願って運営にあたっていきたいと存じます。

皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

ご挨拶

郡研究部長　穴澤　鉦治

去る五月十七日の研究部総会におきまして昭和五十三年度役員として、私をはじめとし全員の留任をお受けいたしました。

かえりみますと、五十二年度は千教研理科教育部の大会を支部の主体運営において引受けまして成功裡に終了することができました。このことは当研究部といたしましてもはじめての経験でありましたし、研究部の歴史の中に特筆される事柄であろうかと存じます。

それにつきましても、四街道小中学校の会場校には感謝の一語につきる程有難さでいっぱいです。また、運営にあたられた役員の先生方、本当にご苦労さまでした。

教科研究部は教科の研究進展に寄与するのは当然のことでありますが、その内容が片寄っていたのではやはり効果的とは言えないと思います。このような大会を立派に運営して県内の大勢の理科教師の研修の場を提供し、ひいては支部内の意欲を刺激し、進展をはかっていく、これらのことは研究団体としては重要なことであると考えます。どうぞ、これを機会に、毎年県内のどこかで行われるこの大会に多く参加されることを希望いたします。なお、本年度は山武大会で、東金市で開催されます。

五十三年度の課題としましては、理研会報が一〇〇号を迎えます。研究部に機関紙を持っていることでさえ大へん誇るべきことでありま